

# 露地の美学

—武者小路千家官休庵／拾翠亭を訪ねる—

## 活動レポート

日時：2014年5月15日(木) 10:15～17:00  
場所：武者小路千家官休庵、拾翠亭(京都市上京区)  
京都府立総合福祉会館(ハートピア)3F 視聴覚室  
講師：矢ヶ崎善太郎氏(京都工芸繊維大学准教授)  
吉田昌弘氏(株式会社空間創研取締役会長、JLAU 理事)  
主催：(一社)ランドスケープアーキテクト連盟(JLAU)  
共催：(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部(CLA 関西)  
企画：吉田昌弘、片木孝子、坪倉淳、山田匡、吉武宗平  
参加者：24名(講師、スタッフ含む)

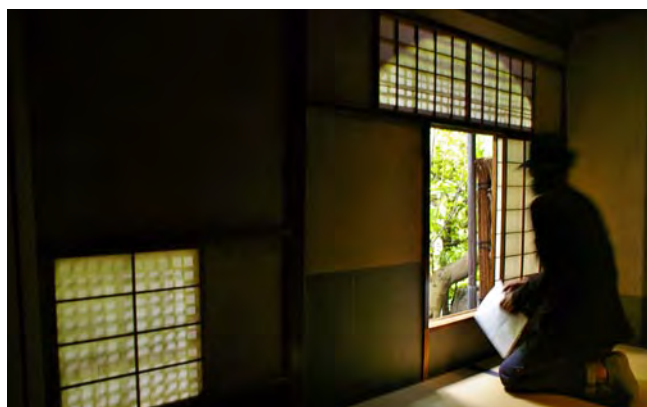
日本を代表する名園見学を通じて、わが国固有の庭園文化や技術に触れる連続セミナー。記念すべき第1回目は現在の和風建築や庭園文化に大きな影響を与えている茶室と露地を見学するべく、京都の武者小路千家官休庵と拾翠亭を訪れました。時おり小雨の降る天候の中、しっとり濡れる新緑鮮やかなお庭を堪能することができました。

### ■武者小路千家官休庵

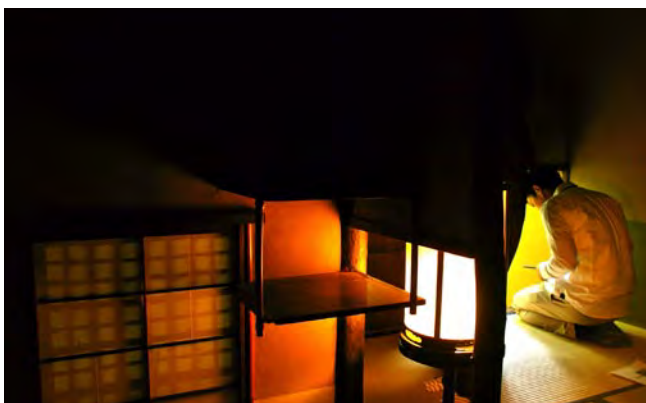
はじめに弘道庵という広間の茶室で、千家の系譜や武者小路千家官休庵の歴史に関するお話を伺いました。続いて、行舟亭、環翠園、半宝庵を見学。しかし皆さん職業柄か、視線は自然と外の庭に向かう参加者が多かったようです。薄暗い室内にあって、窓は緻密に計算された光の演出装置のように感じられました。窓を開けて見える庭の景色も見事に絵になっています。吉田講師からは、「目に立たぬ」様をよしとするのが露地の原則ではあるが、この庭は他と比べるとやや「目に立つ」ほどの華やかさをもっている、とのお話がありました。なるほど、飛び石にもいろいろな種類や色の石を使うなど、とても鮮やかで華やかな印象を受けます。一通り色々な茶室を見学した後、起風軒という平成の茶室でお茶とお菓子をいただきました。涼しげな竹箆に設えた、茶花、茶菓子、茶碗、亭主側の着物の模様までも「あやめ(しょうぶ)」で取り合わせた、風炉が始まる五月ならではの清々しさを感じられる趣向でした。



▲環翠園でお話を伺う



▲行舟亭から庭を眺める



▲半宝庵ののじり口から庭を眺める



▲起風軒でのお点前



お茶をいただいた後は、お庭を見学させていただきました。武者小路千家の代名詞ともいえる編笠門の前を通り抜けて奥の内腰掛まで飛び石の上を注意しながら歩きます。用意した2枚の実測図（昭和5年・重森三玲氏による実測図と、昭和50年代・中村昌生氏による実測図）を見比べると随分変わっていることがわかります。講師の矢ヶ崎先生はかつて中村昌生氏と共に武者小路千家の実測に携われたそうです。使うための庭である露地は、時代ごとの利用形態に応じてどんどんと変化していくのでしょうか。庭の手入れは西さんという若い庭師の方が、先代のお父様を引き継いで一人で手がけられているとのこと。鉄をほとんど使わない独特の透かしの手法で手入れされた庭は、木立を透かして重ねながら見せることで、5m程度しかない奥行きのに庭に深山の趣きを生み出していました。



▲編笠門と内腰掛



▲弘道庵の露地で説明を聞く



▲庭師の西さん（左）



▲重森三玲氏による実測図（右）と中村昌生氏による実測図（左）

## ■拾翠亭（九条家遺構）

午後は京都御苑内にある拾翠亭へ。葵祭にあわせた一般公開日にあたり見学することができました。貴族である九条家の別邸の一部である数寄屋風の書院造の建物とそれに付け加えられた小間の草庵茶室が残されていますが、両講師からは、建物には寝殿造りの釣殿の趣があり、庭は豪快さの中にも繊細さが見て取れる、等の説明を伺いながら見学しました。



▲二階の広縁から九条池を眺める



▲豪快な巨石の石橋と建物際の繊細な石組





▲小間の茶室に向かう飛石



▲参加者による記念撮影

## ■講座

吉田昌弘講師からはランドスケープの観点から『露地』と題した講義をしていただきました。◎露地を知る上での背景となる茶の渡来から茶の湯の成立に関すること、◎坪ノ内と呼ばれた空間が露地に発展してきたこと、◎露地の特性として「非日常性（市中の山居）」「使う空間」「自由で独創的な空間」が挙げられること、◎露地のデザインの基本として「自然な趣きの創出」「移り行く、変化する景（見え隠れ・生けどり・結界）」「至近景（ディテール）」「創意工夫」が重要であり、それ故に露地をつくるには高度な技術が必要であること、等のお話を伺いました。

矢ヶ崎講師からは建築史を専門とする観点から『草庵茶室と露地』と題した講義をしていただきました。◎なぜ茶室の基本が四畳半なのか、◎日本の建築には常に「縁」があったが利休は「縁」をなくし座と土間を直結するという革命を果たしたこと、◎茶室の発生が日本建築の転換期であったこと、◎利休以降、古田織部や小堀遠州がどのように茶室を発展変化させてきたのか、◎床の間の話、等等。絵巻や古図を引用しながら大変興味深いお話を伺いました。

講義の後の懇親会にも両講師とも参加していただき、興味深いお話は夜遅くまで続きました。



▲吉田昌弘講師



▲矢ヶ崎善太郎講師



▲講座の様子



▲懇親会の様子